

修学しゅうがく  
(夢窓疎石むそうそせき)

一日學問千載寶  
一書恩徳勝萬玉  
一言教訓重千金

一日いちにちの  
學問がくもん  
千載せんざいの  
寶たから

解説 學問・知識の大切さ、貴重さについて、自らの体験から述べた詩。

百年ひゃくねんの  
富貴ふうき  
一朝いちちようの  
塵ちり

語釈 ※修学||學問を修める。※千載||千年。永遠。※富貴||持ちで、身分・地位の高いこと。※一朝||わずかの間。一時。※一言||一冊の書物。※恩徳||恵み。情け。※万玉||多くの寶石や美しい石。※千金||非常に高価なこと。 ※||※||※||※||※||

一書いっしょの  
恩徳おんどく  
万玉ばんぎよくに  
勝るまさ

通釈 わずか一日の浅い學問であっても自分の身につけば、永遠に宝となつ

一言いちごんの  
教訓きょうくん  
重きこと  
千金せんきん

て残るが、逆に百年もの長い年月を経て蓄えられた大きな財産でも、學問と違つて、僅かわずの間に灰塵かいじんに帰すということがある。意義のある一冊の本から受ける恩徳おんどくというものは、多くの万玉よりも貴重なものであり、師の一言の教訓の貴重さは、非常に高価な千金にも相当する。